

# 「異年齢保育」における運動能力の発達特性

## — 倉敷市S保育園の事例 —

宗高弘子 (就実大学), 大金朱音 (国立長寿医療研究センター)

### Characteristics of Physical Ability Development In a Sample of “Different Ages-Mixed Classes” : A Case Study in Nursery-School S in Kurashiki

Hiroko MUNETAKA (Shujitsu University) & Akane OHGANE (National Center for Geriatrics and Gerontology)

#### 抄 録

近年、子ども達の運動能力が低下傾向にあると言われているが、「異年齢保育」を取り入れている保育園におけるその実態は知られていない。本研究では異年齢保育実施園に通う幼児の運動能力の実態および発達特性を調査するため、3歳児以上で異年齢保育を実践しているS保育園において、6月および11月に運動能力テストを実施した。5ヶ月間の変化を、体格・運動能力毎にクラス年齢別・男女込と年齢別・男女別に検討した結果、以下のことが明らかとなった。

1. 男女児とも、いずれの年齢群においても、体格・運動能力は、全国平均レベル以上であった。2. 全てのクラス年齢において、体格・運動能力はともに、5ヶ月間の順調かつバランスのとれた発育・発達を示した。3. 運動能力の発達量の加齢変化は、男女ともに観察された。運動能力は主に、4歳児以降に大きく発達していた。但し、瞬発能力の発達には、加齢変化が見られなかった。4. 体格の発育量に性差は観察されなかったが、運動能力の発達量には性差が見られた。投能力においては5歳男児における顕著な発達が観察され、バランス能力においては3歳女児における顕著な発達が観察された。5. 投能力、瞬発能力における発達の個人差は大きく、特に、3歳女児における個人差の傾向は顕著であった。

キーワード：保育園児，運動能力，異年齢保育